

出来事ファイル (No.23-11)

■MOTOMACHI WINE FESTA

元町1番街商店街では9月29日(金)・30日(土)、商店街150周年記念イベントとしてWINE FESTAを開催した。モトマチバルでは、おなじみ神戸ワインのほか、世界のさまざまなワインを集め飲み比べを楽しむほか、神戸近藤亭のキュッシュや洋食グリル一平のカツサンドなど、世界のグルメでワインを楽しんだ。



■KOBE MOTOMACHI MUSIC WEEK

24回目を迎えたMUSIC WEEKは、9月30日～10月8日まで開かれた。丸太や2階ギャラリー「響」をはじめエスタシオン・デ・神戸、アマデウスなど例年の会場を舞台としたほか、まちづくり会館では10月2日と6日の両日、13時から15時からに分かれ、「みんなで歌おう うたごえ広場」として先着60人を対象に、童謡、演歌、昭和歌謡、アニメソングなどをピアノの生演奏で楽しく歌った。



栄町通まちづくり委員会は、10月13日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(株)Kテクノ)井川靖子、(神戸市都市局景観政策課)小林凜、(神明倉庫(株))大西登紀子、(株)神明ホールディングス)久保雄暉、(兵庫県信用組合)亀田仁・藤本吉英・谷垣ゆり・小林絵美、(広島銀行)船倉健太郎、(三鈴マシナリー(株))錦織彬子、(新光明飾(株))中川俊・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、14名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



■もとまちハーバークリーン作戦

10月4日(水)正午12時から、エスタシオン・デ・神戸から9名、あいあいネット神戸から1名、ネットヨタ兵庫から24名、神戸ベルコから8名のみなさまが、ハーバーロード周辺・きらら広場・D51-パーク周辺のクリーン作戦を実施しました。毎月、第1水曜日12時より、地域の企業様有志で実施しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。



エスタシオン・デ・神戸
あいあいネット神戸のみなさん



ネットヨタ兵庫株式会社のみなさん



株式会社神戸ベルコのみなさん

□読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎発掘された明石の歴史展 -明石の古窯とやきもの・瓦-

会場：明石市立文化博物館
会期：2023年10月28日(土)～12月3日(日)
時間：9時30分～17時30分
(入館は17時まで)
休館日：毎週月曜日
問合せ先：078-918-5400
関西文化の日：
11月5日(日)・11月19日(日)は無料



明石焼 手桶型水指

神戸元町商店街 楽市楽座 11月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523

- 11月 2日(木)～11月 7日(火) 示現会ひょうごの作家たち展
- 11月 9日(木)～11月14日(火) 水中写真
- 11月16日(木)～11月21日(火) 神戸残像6
- 11月23日(木)～11月28日(火) 第45回CPM展
- 11月30日(木)～12月 5日(火) 第28回森の会展

◇元町映画館(有料) TEL366-2636

- 10月28日(土)～11月 3日(金) 『鯨のレストラン』・『同じ下着を着るふたりの女』・『竜二』公開40周年記念上映
 - 10月28日(土)～11月10日(金) 『鯨の骨』
 - 11月 4日(土)～11月10日(金) 『SILENT FILM LIVE シリーズ21』・『はこぶね』
 - 11月 4日(土)～11月17日(金) 『破壊の自然史』・『キエフ裁判』
 - 11月11日(土)～11月17日(金) 『マルセル・マルソー 沈黙のアート』・『過去負う者』・『あはらまどかの静かな怒り』
 - 11月18日(土)～11月23日(木) 『ルードボーイ トロージャン・レコーズの物語』
 - 11月18日(土)～11月24日(金) 『シアの法則』・『クモとサル』・『TOCKA タスカー』
 - 11月18日(土)～12月 1日(金) 『栗の森のものがたり』
 - 11月24日(金) 『レンタル×ファミリー』
 - 11月25日(土)～12月 1日(金) 『いっちょらい』※11/29休映
 - 11月25日(土)～12月 8日(金) 鈴木清順 生誕100年記念『SEIJUN RETURNS』
 - 11月29日(木) 『Wakkaj』
- 【予定は変更になる場合がございます。】

みなと元町 TOWN NEWS

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

元町駅と神戸駅の間は「西元町」なのか

まち活拠点まちラボ 研究室長 御鷹が丘 建太

かつてここには相生橋があった

ライブステージに飲食ブース、フリマもスタンブラーも何でも御座れ。先月末、「こうべ相生橋フェス」と銘打つイベントが開催された。会場は神戸駅より東、D51-PARK及びその周辺。デコイチことD51蒸気機関車が保存されている「あのエリア」と言えば、神戸市民ならピンと来るかもしれない。

イベント名に冠してある「こうべ相生橋」は、会場となった「あのエリア」とイコールなのだが、これをどう表記しようか難儀した経緯がある。D51-PARK及びその周辺とは、神戸駅前でもあり、西元町駅前でもあり、範囲は相生町や元町通、東川崎町などに及び、良くも悪くも千々に形容できるからだ。このようなケースでは、該当するどの町の要素も包括し、かつ誤りのない名前が求められる。だが、既存の駅名や町名では括りきれず、無情にも歴史を蹂躪するキラキラネームが捏造されるのはよくある話。山手線の新駅「高輪ゲートウェイ」という駅名はまさに悪例で、唐突すぎる横文字は大いに論争を招いた。そのような時は、サルベージした地名を現代に露出させるという命名方法が好ましい。この先祖返りとも言える手段は、史実に基づきつつ、現代にとっては新風をもたらせ得る。イベント名の話に戻そう。かつてこの地に存在した相生橋こそ、「こうべ相生橋フェス」たる所以だ。以下、時層に埋没していた相生橋と、元町駅と神戸駅の間にある「あのエリア」について言及する。

あのエリア=相生橋な理由

現存していない橋という暗渠を匂わせるが、相生橋は川に架かる橋ではなく、鉄道(現:JR神戸線)を跨ぐように架かる西国街道の陸橋だった。しかも日本初の跨線橋(鉄道を跨ぐ橋)にして、市電の軌道も敷かれた併用橋。当時において画期的なランドマークでもあったことや、わざわざ跨線橋とした西国街道の重要性は想像に難くない。

橋名の由来は所在した相生町からだと思われるが、そもそも相生町は大和や千歳よろしく瑞祥地名の一種。相生の名が付く場所は日本各地に分布しており、殆どは兵庫・高砂神社を舞台とした能に登場する「相生の松」がモチーフとされる。寄り添う二本松が同根に収束するというその幹形から、相生とは共に生き共に老いる、または長寿や縁結びに喩えた吉語であり、複数の町を統合した際や街道の分岐点への命名にしばしば活用されてきた。諸説はあるが、当地は西国街道と有馬街道の合流地点を相生の松に重ねたパターン。神戸と同時期に開港した函館・横浜・

新潟・長崎のいずれにも相生町が拓かれた他(函館のみ現在町名は元町)、東京や広島などにも相生橋が存在するように、江戸～明治期にかけて相生はトレンドだったのかもしれない。

何にせよ神戸の相生橋は捏造されたものではないのだから、再び名乗って定着してしまえば今からでも遅くに失すことは何一つ無い。相生橋。支柱はもう無いが、支障も何一つ無い。

相生橋は兵庫県の日本橋か

神戸には〇〇橋という駅名が絶無だ。横浜や大阪には電停由来のバス停や駅名として、広島や長崎では現在も電停名として〇〇橋が点在し、広域地名にもなっていたりするの、である。緋いてみたら、神戸市電は〇〇橋ではなく、〇丁目を電停名に多用して電停間のリズムをとっていた。沿線町域の多くが横に細長い、そんな神戸の特性も一因か。

然るに〇〇橋という駅名は便利なもので、複数の町名が近接している場所に駅が設置される際、各町を接ぐ橋の名称こそがそんな駅名の最適解だったりもする。エリア名にもまた然り。こと「あのエリア」には複数の町名がひしめくが故、相生という佳名も橋の名としてお誂え向きだ。

また、先述した西国街道と有馬街道が「相生する」のに関連してか、兵庫県里程元標も相生橋とセットだった。ここはさしずめ、神戸の日本橋といったところか。日本橋は単なる橋の名に非ず。広域地名でもあり、概念でもある。今や日本橋といえば百貨店や金融機関の集積地を指示し、日銀本店をはじめとする中枢が林立。かの三越本店も所在する。相生橋も橋の名だけに非ず。概念だと判ずれば「あのエリア」の名として、無上に打って付けだろう。神戸では稀有となる〇〇橋というまち。相生橋は「あのエリア」にシンコペーションを刻む。

日本橋の三越、西元町の三越跡

なかなづく今回のイベント会場は西元町駅の目の前だったが、イベント名にその駅名が冠されることはなかった。そもそも西元町という町名が存在していないことに加え、主要駅でもない醜げな立場も相まって駅名が地元に着しているとは言い難く、「あのエリア」名としては西元町にコレジャナイ感があったからだ。この問題の根源には駅命名時の熱量が反映したと考えられ、単に元町の西隣の駅だから西元町で、という決定があったのではないだろうか。若しくは駅至近に相生橋変電所があるので、奇を衒ったのだろうか。



これは東京における例で恐縮だが、西荻窪で飲んでしていると「俺たちは隣駅の荻窪とは違う」と、よく耳にした。そんな気概が駅開業後に芽生えているまちには、ニシオギといった愛称が自然発生している。神戸における類例として、かつて新開地や新長田が三宮に向こうを張って「西神戸」と呼称されたことが挙げられる。もし「元町ではあるけれど、俺らはこの一帯を西元町と呼んどるんや」という気概が駅開業より先に定着していたら、自ずと「こうべ西元町フェス」として開催されただろう。西元町駅は、密かにハーバーランド下車駅としても使え、その好立地さからポテンシャルが高い駅だけに惜まれる。

また、先にそっと触れた三越。在りし日の三越神戸支店と直結する形で開業した西元町駅だが、東京の地下鉄に倣って三越前駅を名乗っていたら歴史が覆っていたのでは…と、コンコースの奥で閉ざされた連絡通路を見る度に嘆息する。何が言いたいか。大事なのは地名や駅名に地元の気概、すなわち魂が宿っているかどうか。日本橋の三越、相生橋の三越。概念があるまちに気概あり、気概があるまちに概念あり。概ねを、連絡通路は直結していた。



西元町駅コンコース。右奥が三越連絡通路跡

先人の魂を未来に接ぐ相生橋

この原稿を書いている段階で件のイベントはまだ開催前だが、今まさにこの文を読んでくださっているあなたがいる道のその先には、イベント関係者の方々によって再び「相生橋」が架けられている。筈。陸橋だった相生橋は震災後も震災後も当然再建され得なかつたが、COVID-19による疫災からの復興の一頁として、無形の橋が町と町を接ぐイベント名に掲げられた意義は深い。来年以降も「こうべ相生橋フェス」の大盛況を切に願うとともに、そこで地元の魂が自分のまちの名を何と叫ぶのか。

ここは相生橋から徒歩8分。西元町の東。こうべまちづくり会館4階。ニッチな学びや発見と屋根が広がる公園。最近、私が声に出して読みたいと思っていたフレーズで締め括ろう。以上、まちラボより偏愛を込めて。

海という名の本屋が消えた (120)

平野義昌

西村旅館(12)

雑誌「アンティーク」は1918(大正7)年6月から1年余り、計13冊発行された。国立国会図書館のデジタルコレクションで発禁の創刊号を除く12冊を読むことができる。但し「1918年拾月號」は乱丁のため西村貫一の文章8ページ分が欠落状態である。

同誌同人で今のところ素性がわかるのは「水谷(みずのや)鐵也」(彫刻家)と「吉田菱歌」(洋画家)のみ。貫一は13(大正2)年の欧州旅行帰国の船で水谷と知り合った。

全号の内容を逐一紹介しないが、貫一の原稿からこの時期の考えや行動を見てみる。18年12月号まで毎号、貫一は書き溜めた原稿(随筆、創作)を2〜3編(5編の号もあり)寄稿している。その後は月1編。

15(大正4)年貫一とマサ結婚、17(大正6)年に西灘村大石川(正式名・都賀川)の畔に別宅を構えた。貫一は西村旅館の経営者となっていたが、仕事は主家に忠実な「白鼠」(註1)=ベテラン従業員たちに任せっきり。性根がすわっていない。高等遊民よろしく庭仕事、読書三昧、執筆に音楽・美術・演劇鑑賞、彫刻制作、餌に出て鉄砲撃ち。正月元日、妻を伴い旅館主人として新年を祝う。ほんとうは別宅で過ごしたい。

〈……然し店の者は(世間的な)私と云う主人が席につくと云う事は、大変に喜ぶ所なんだ。〉註1

ふだん苦虫顔の従業員たちがニコニコしている。貫一夫妻の存在がうれしい。貫一は挨拶と盃をすませて別宅に帰る。市電の乗客たちは生活に疲れているようで、車内は「胸を押し潰す様な陰気な空気で充たされて居る」。「おまえの様な親の余力で自分の労働の上に生活しない人間が沢山居るために、自分等の様な人間が苦しんだ」という圧迫も感じる。暖かい服装に罪悪感を持つ。なぜ自分を善と信じないのかと自問。

〈「おまえは何のために多く本を読み、多くを知らんとするのか。今握って居る力で真実をほり出さないのか、臆病であってはならない、そんな事じゃ永久汝は真実をほり出せないぞ」と、喧ましく耳の側で騒ぐ。〉註1

同号「朝」では主人公・文一が別宅での生活を語る。南東の部屋の高い窓から朝の光が射し込む。真っ白なベッド、葡萄色の布団、真っ青なカーペット。〈文一は枕元には黙阿弥の伝記と、ドストエフスキーの本とを投げやって、死んだ様に静に平和な眠りに入って居る。なかなか起きてきそうにも無い。太陽は高く高く昇るに従って其の美しい姿を、点から線へとたゆまずに移して居る。〉註2

文一が目覚める。女中たちの話し声や掃除の様子が聞こえる。庭師が作業を始めている。犬3頭を連れ餌に出る。途中山中で暮らす人たち=山窩に出会う。自然を友にして放浪する彼らをジブシー、ボヘミアンと呼ぶ。自分は自由な生活だが、彼らの生活にはほど遠いと思う。自分の生活を右にするのか、左にするのか、決断し得ない自分に愛想が尽く。

芸術か実業かと言えば、貫一は芸術に傾いている。美術家たむろするカフェでリーダー格が語る。芸術活動は人類のためにとか言うが、50歳を越えてからのこと、今を楽しめばよい、と。貫一は違う。

〈自分は自分の一挙一動が人類に大変な関係があると信じ切って生きて居る、そして特にArtistなんかは左様ななければならないのだと思う、大変に違うものだなあ。〉註3

貫一は芸術・創作の道を、好き・愉快でよいと思う。なぜ好きなのか、愉快なのかを問う、考える。そのうえで筆をとる。真面目な態度で真実を。〈私等姉弟は小さい時に両親を亡くして、他人に育てられたりした勢(引用者註、せい)かして、晴れ晴れしたのよりもどちらかと云うと、メランコリーの方が自分にぴったり合った様な気がしますわ。〉註9

あきは東京住まい。夫は封建的、妻に読書すら許さない。夫は鐵也とソリが合わず、親戚付き合いを禁止。あきは病弱、子は生後すぐの病で障害あり、不幸を嘆くばかり。鐵也が忠告する。(1)子どものために一生を送るということは今の生活を続けるということ。それは自分と夫を偽ること。(2)結婚生活に見切りをつけ、自分の生活・幸福を創造する。「貴女の運命を左右する剣は貴女が強く握って居る」と、勇氣と決心を促す。そこに夫から電話、大声で怒鳴っている。〈鐵也「貴女の別れ道ですよ」〉註9

「倫敦での或る日」(1918.10月号)は13(大正2)年欧州旅行のこと。イギリスの歴史家トーマス・カーライルの記念館を訪ね、著書を買う。Silence is greater.の句に「淋しい気分になる」。部屋に戻り、祖母と一緒に写真(筆者註、祖母の叔母「うめ」のことだろう)と姉妹の写真を見て、自分を心から愛してくれる人がいる、と心安める。註10

前出の「夢」で姉妹4人の結婚生活を紹介している。長姉は親子三人仲よく達者、夫は戦争で財産を築き、骨董趣味。次姉の夫は法学士、子ども三人。三姉の夫は高等商業卒の商人、家族万能主義、世渡り上手、子三人。妹の夫は早稲田出身、山好き、仲睦まじく子一人(註8)。事実と創作の境目は不明。

「断片録」(19.5月号)で妹・末子の死を伝える。(妹は死だ(引用者註、死んだ)とは思えんが、然し本箱の上に彼女の結婚当時の写真をみると、彼女は其所に居る。自分の死ね迄自分と共に居ると思う。だが彼女は無言って(引用者註、だまって)自分を本箱の上から見つめて居る。〉註11

後年『西村旅館年譜』(以下『年譜』)には「八月八日 米価暴騰、米騒動全国的に起る」と記載。註7

「夢」(1919.1月号)は亡くなった家族たちとの対話形式。他界した順番は祖父母、兄弟、父母。まず兄弟が下界に降り後継者・頑吉=貫一を視察し報告。曰く、頑吉は「大馬鹿野郎」、家を出て郊外に不可解な家=異人館を建て、一日書齋で読書、大きな本箱に囲まれて、外国の本が山ほどある。「あの調子じゃ自然商売も御留守になる訳です」。頑吉を起こして問答すれば、まあ言えばこう言う、こう言えばああ言う、「全くなかなか以って頑固」、「フフン」と鼻で笑う。全員が頑吉と面談。註8

なぜ本邸を離れた? 都会は空気悪い。なぜ異人館か? 日本家屋は物騒、生命財産を守るため。本邸の商売は? 私には私の道がある。それは何か?

〈まあ生きる事なんです。商売と金とは自分が真に幸福に世を渡るに入る手段です。其の意味に依って私は商売をやっています。先づ先づ立派な人間になるのが何よりの私の真の道です。〉註8
「日曜日」(19年2月号)は久しぶりの教会礼拝。牧師の説教より讃美歌とオルガンの音色で良い心地になる。教会前の商店の籠に鳥がいる。鳥にとって籠の内が全世界で、外は悪魔の世界なのだろう。自分には広々とした自然・自由な世界が必要、と思う。註9

同誌原稿で貫一は姉妹のことにたびたび触れている。1895(明治27)年父母と祖母の叔母

が相次ぎ病死、西村家に5人の子が残された。『年譜』には、1918年11月3日妹・岡田末子死去の記載のみ。他に情報が無い。

「姉」(1918.8月号)は戯曲仕立て。年に一度鐵也=貫一の洋館に姉あき、はる、妹すえが集まる。はるがレコードを聴きながら語る。〈私等姉弟は小さい時に両親を亡くして、他人に育てられたりした勢(引用者註、せい)かして、晴れ晴れしたのよりもどちらかと云うと、メランコリーの方が自分にぴったり合った様な気がしますわ。〉註9

あきは東京住まい。夫は封建的、妻に読書すら許さない。夫は鐵也とソリが合わず、親戚付き合いを禁止。あきは病弱、子は生後すぐの病で障害あり、不幸を嘆くばかり。鐵也が忠告する。(1)子どものために一生を送るということは今の生活を続けるということ。それは自分と夫を偽ること。(2)結婚生活に見切りをつけ、自分の生活・幸福を創造する。「貴女の運命を左右する剣は貴女が強く握って居る」と、勇氣と決心を促す。そこに夫から電話、大声で怒鳴っている。〈鐵也「貴女の別れ道ですよ」〉註9

「倫敦での或る日」(1918.10月号)は13(大正2)年欧州旅行のこと。イギリスの歴史家トーマス・カーライルの記念館を訪ね、著書を買う。Silence is greater.の句に「淋しい気分になる」。部屋に戻り、祖母と一緒に写真(筆者註、祖母の叔母「うめ」のことだろう)と姉妹の写真を見て、自分を心から愛してくれる人がいる、と心安める。註10

前出の「夢」で姉妹4人の結婚生活を紹介している。長姉は親子三人仲よく達者、夫は戦争で財産を築き、骨董趣味。次姉の夫は法学士、子ども三人。三姉の夫は高等商業卒の商人、家族万能主義、世渡り上手、子三人。妹の夫は早稲田出身、山好き、仲睦まじく子一人(註8)。事実と創作の境目は不明。

「断片録」(19.5月号)で妹・末子の死を伝える。(妹は死だ(引用者註、死んだ)とは思えんが、然し本箱の上に彼女の結婚当時の写真をみると、彼女は其所に居る。自分の死ね迄自分と共に居ると思う。だが彼女は無言って(引用者註、だまって)自分を本箱の上から見つめて居る。〉註11

- 註1 西村貫一「元旦」(「アンティーク」1918.9月号)
 註2 「朝」(同上)
 註3 「感想」(同上)
 註4 「爛語長語」(同上)
 註5 週刊朝日編『値段史年表 明治・大正・昭和』朝日新聞社1988年
 註6 「反古片々」(「アンティーク」1918.10月号)
 註7 西村貫一『西村旅館年譜』自費出版1980年
 註8 西村貫一「夢」(「アンティーク」1919.1月号)
 註9 「姉」(「アンティーク」1918.8月号)
 註10 「倫敦での或る日」(「アンティーク」1918.10月号)
 註11 「断片録」(「アンティーク」1919.5月号)
 写真「大阪朝日新聞」1918(大正7)年7月24日神戸附録欄、「アンティーク社主催、7.25慶應マンドリンクラブ演奏会」案内記事。
 引用文は適宜新字新かなに直し、句読点も直した。



みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.28

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

神戸ポートタワーのリニューアルオープンにむけて

改修工事中のポートタワーも、いよいよ仮囲いが外される段階になり、来春のリニューアルオープンが近づいてきました。

今年1月のこのページの拙稿でもご紹介しましたが、神戸松蔭女子学院大学の私のゼミでは、「一葉双曲面」という独特の造形美を持つ神戸ポートタワーの魅力を発信し、リニューアルオープンを盛り上げ、地域活性化につなげることを目標に、2021年度から学生たちと「神戸ポートタワー60th・デザイン活用プロジェクト」に取り組んできました。

優れた造形性を身近なデザインに活用する様々な提案作品を制作したり、「KOBEポートタワー・FANTASY」という幻想的な空間演出作品を制作し、松蔭祭で展示したりといった取り組みです。今回はその後の活動状況について、ご報告したいと思います。

まずこのページを連載中のJIA(公益法人日本建築家協会)近畿支部兵庫地域会の地域まちづくり活動の一環として、神戸松蔭と連携して、このプロジェクトの学生作品展示と「ミニポートタワーを作ろう!」という、子どもも大人も楽しめるワークショップを合わせたイベントの企画を進め、実施しました。

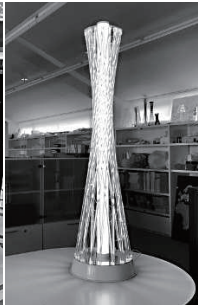
最初のイベントは、今年2月23日の祝日に、デザインクリエイティブセンター神戸のKIITO:300というスペースを提供していただ



KIITOでのワークショップ



「WIWもの・空間学生デザイン展」の展示



新作クリスタルタワー



ミニポートタワー作りを楽しむ親子連れ

ウォーターフロントへの期待

神戸松蔭の私のゼミは、インテリアを専門とし、「身近な空間のよりよいあり方を考える」ことを共通テーマに作品制作を行っています。卒業研究では、学生たち各自が「あったらいいな」と思う空間を具体的な場所をリサーチして設定し、計画案を図面やパースにまとめて表現します。

みなと元町周辺では、乙仲通界限やウォーターフロントの一部をテーマにした学生がこれまでに何人もいました。乙仲通界限での様々な作品提案については、以前のこのページの連載「乙仲通界限の魅力と可能性」などでもご紹介しましたので、今回は学生たちが自由な発想で考えた、ウォーターフロントでの計画案を、ほん

の少しですが、ご紹介したいと思います。

昨年、メリケンパークの一部に「インクルーシブパーク」を計画した学生がいました。障害の有無にかかわらず、誰もが一緒に遊べる公園は、東京では整備が進んでいますが、神戸近辺ではまだ事例がわずかです。船や海の生き物をモチーフに大小の遊具を配した計画は、子どもたちが喜びそうな生き生きした空間となりました。

また現在、同じメリケンパーク内で、館内や屋上で食事をしながら映画を楽しめる近未来的な「新感覚シアター」を計画中の学生もいます。

数年前、豪華客船で神戸港にきた外国人から近辺で和食を楽しめる場所を訊かれたのをきっかけに、煉瓦倉庫をリノベーションし、神戸らしい和食レストランを提案した学生もいました。

ブンな空間でも、存在感のあるものとなり、また2名の学生が代表でプレゼンテーションを行い、このプロジェクトについて、詳しく説明しました。そしてインテリアデザイナーやプロダクトデザイナーなど5名の専門家による講評と厳正な審査が行われ、大変光栄なことに、私たちが最優秀賞に選ばれました。

そして、この受賞を記念して、学長から贈呈された材料を使って、ミニポートタワーの新作「クリスタルタワー」を制作しました。

さらに7月15日(土)から17日(月)までの3日間、六甲アイランドの神戸ファッションマートで開催された、大丸インテリア館ミュージエール「家具大蔵ざらえ」にて、神戸松蔭女子大学としてブース出展の機会を提供いただき、その中で新作を含むこのポートタワープロジェクトの一連の学生作品を展示。また最終日には、第2回「ミニポートタワーを作ろう」ワークショップをJIA兵庫地域会と共催し、多くの方に楽しんでいただきました。

8月5日(土)には再びKIITO:300にて、作品展示とワークショップを実施し、その様子は、読売新聞にも記事として掲載されました。

そして、みなと元町タウン協議会8月定例会でも、活動報告の機会をいただきました。

こういったポートタワーに関する作品制作や展示、ワークショップなどで、何か地域のみなさんと連携して、お役に立てる機会がありましたら、お声がけいただければ幸いです。

神戸松蔭の作品展示は、アトリウムオー

また爬虫類が大好きで、アートと融合した魅力的な爬虫類館をウォーターフロントの新たなスポットにしたいと考え、空間提案にまとめた学生もいました。アトアの計画発表前でしたが、彼女が自ら設定した計画場所には、その後アトアが建ちました。水族館と爬虫類館の違いはあれ、構想は、的を得ていたのだと思います。

ポートタワーと共に、ウォーターフロントの今後に、学生たちも私も、大いに期待しています。



米原 慶子 (よねはら けいこ)

神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 ファッション・ハウジングデザイン学科 准教授/Ks Architects 夙川アトリエ 主宰/住宅・建築・インテリアなど、空間デザインを専門として教育に携わる